

伝える！ 国連の仕事

言葉は「いのち」 その力を信じて



グテーレス国連事務総長は、大阪・関西万博の国連パビリオンを訪れ、人類が団結すれば実現できる「持続可能な未来」を没入型映像で体験した
© UN Photo/Daisuke Tanaka



会議や式典の合間に国連広報センターの職員と撮影したオンラインショット。1列目左がグテーレス事務総長、右が塩本かおるさん
© UN Photo/Daisuke Tanaka

国連の思い 世界に効果的に発信

国連にとって、「言葉」は「いのち」です。T・I・C・A・Dの開会式でのスピーチ、石破茂総理大臣との初めての会談、万博の式典でのあいさつ、そして記者会見やメディア・インタビューなど―グテーレス事務総長は、日本でのあらゆる機会を通じて、アフリカの開発や国連が取り組むさまざまな課題における、日本のリーダーシップへの感謝と期待を示しました。国連創設80周年の節目に日本を訪れて直接語りかけることは、国連にとって大きな意味を持ちます。また、ガザやウクライナをはじめとした戦争、国連の安全保障理事会の改革の必要性、法の支配が軽んじられていることへの懸念

8月中旬、国連トップのアントニオ・グテーレス国連事務総長が、神奈川県横浜市での第9回「アフリカ開発会議(TICAD)」と大阪・関西万博での国連スペシャルデーの式典に出席するために日本を訪れました。事務総長の万博でのあいさつに、背筋がゾクゾクしたという国連広報センター所長の根本かおるさん。どんな「言葉」だったのでしょうか。国連の「言葉の力」を強く感じる最終回です。



安全保障理事会

国連の主要機関の一つで、国際平和と安全を保つ役割をもっています。5か国の「常任理事国」と10か国の「非常任理事国」で構成されており、常任理事国は、中国・フランス・ロシア・イギリス・アメリカです。非常任理事国は、世界の各地域に割り当てられ、選挙によって選出されます。任期は2年です。

安全保障理事会では、15か国のうち9か国以上が賛成した場合、議案が採択されます。しかし、常任理事国だけがもっている「拒否権」を使うと、反対しているのが1か国だけでも不採択となります。自国の都合で拒否権が使われることもあり、問題視されています。

グテーレス事務総長の「真剣勝負」

訪日中、グテーレス事務総長の感情はほとぼりした瞬間がありました。万博での国連スペシャルデーのあいさつで「これは個人的な見解ですが」ととわつたうえで、準備されていたスピーチ原稿から目をはなし、突然アドリブで話し始めたのです。スクリーンに映し出されていた予定原稿の和訳が話の内容に合わなくなり、会場の空気がじんわり凍りました。「すべての地域について公正に代表され、平和を保障するための決定が下される安全保障理事会でなくてはなりません。戦争を認めるための決定をしたり、戦争を止めるための決定ができなかったりするのではなく、言ったとき、会場から大きな拍手が起きました。」

「世界中の非常に多くの人々が、国連について見るときに、安全保障理事会としての役割を果たせていない部分はけがりに目がいくことを残念に思います。しかしそれは国連の（一部）にすぎず、しかも明らかに改革が必要な部分です。国連のほかの活動や、世界を一つにしよとする私たちの努力は、ときどき忘れられてしまいます。」

「国連を伝えるという私の仕事を通じて、みなさんが国連の活動や世界の出来事に関心を寄せてくださったのであればうれしいです。国連の活動はみなさんの暮らしや将来に大きな影響をあたえます。こそ国連のことを身近に感じ続けてください！」

ねもと かおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などを経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で勤務。国連世界食糧計画（WFP）広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。

